
帰国渡日児童生徒つながる会

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」

・目的

現在、京都府の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような生徒たちは、言葉や文化が違うということから、他の日本人の生徒たちとのコミュニケーションが上手くいかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。そのような生徒たちは、普段お互いに出会う機会を持つことが少ない。そのため、共に出会い、活動することを通して、同じようなことに悩んでいる人がいるのだということを知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ることができること、また、一人一人が持つ個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身はその国の言語や文化を大切にできるような場を提供することを目的として、2008年度よりe-projectを利用し活動を続けている。

つながる会の活動は主に一年を通して春と夏と冬の3回、各1～2日間行っており、それに向けて週一回ミーティングを行っている。つながる会の活動をより多くの外国につながる子どもたちに知ってもらうため、活動日の1カ月前にはチラシと申し込み用紙を作成し、京都府内の小中学校や施設に郵送している。加えて、フィリピン人団体パグアサと合同で、子どもたちの勉強を支援するだけのこ会も、毎月第2日曜日に行っている。本活動への参加者は長い間日本に住んでいる、あるいは生まれ育ったという子どもから、渡日して間もない子どもまで様々である。そのため日本語がそれほど得意でない子どももいるが、日本語とルーツの言葉を両者共話す事が出来る子どもやつながる会のスタッフの力を借りて、

コミュニケーションをとりながら活動をしている。

2. 代表者および構成員

・代表者

青木小百合 国語領域専攻 3回生

・構成員

高木夏未 教育学専修 M1

島涼也 英語領域専攻 2回生

山内莉子 英語領域専攻 2回生

柴本愛美 国語領域専攻 4回生

井澤七海 社会領域専攻 2回生

3. 助言教員

浜田 麻里先生 (国文学科)

第2章 内容や実施経過など

1. 春の活動について

新型コロナウイルスの影響により中止とした。

2. 夏の活動について

直前まで準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により中止とした。以下に準備の過程を示す。

6月 活動内容の考案 新活動員の勧誘

7月 チラシ作成・印刷・発送

8月 本学より感染者が確認された為中止決定

3. 冬の活動について

以下のスケジュールで準備を進め、無事に開催する事が出来た。

10月 活動内容の考案

11月 チラシ作成・印刷・発送

12月24日 オンラインにより事前ミーティング

12月28日 冬の活動開催

13:00～

自己紹介 (名前,学年,自分のルーツ,好きな食べ物)

勉強会

14:30～

折り紙づくり

ドッジボール@運動会

宝探し@ガメラ

16:00～

アンケート記入

16:30～

解散

例年であれば午前より集まり、昼食時は皆で炊事をしていた。しかし、新型コロナウイルスの影響により飲食が難しくなった為今回は午後から集まる形

となった。

勉強会では各々が冬休みの宿題等を持ち寄り活動を行った。スタッフは机間巡視をしながら適宜サポートを行った。勉強会後は折り紙づくりをし、その後ドッジボールを行った。ドッジボール中にスタッフはカメラにて折り紙を隠し、ドッジボール後にカメラで宝探しを行った。レクリエーション中は年長者が他の参加者に対しフォローを行っている様子が見られ、わずか数時間の活動でありながらも参加者同士に絆が育まれている様子があった。

4. たけのこ会について

緊急事態宣言中は活動を自粛し、6月からオンラインを用いながら活動を再開した。

- ・開催日 6月14日 7月12日 8月9日
9月13日 10月11日 11月8日
12月13日 1月10日

希望する子どもはオンラインを介して勉強会を行い、あるいは京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにて平常通り英語クラス・日本語クラスに分かれ活動を行った。

第3章 結果や成果など

今回は初参加の子ども達が多数いた。最初は緊張して中々部屋に入る事が出来なかった子ども達も、最終的には笑顔で帰っていった。また、学校にいけないあるいは学校で嫌な思いをしている子ども達も、本活動に居場所を見出している様子が見られる。冬の活動で得たアンケートでは、「初めて日本語で話す事が楽しいと思えた」というコメントが見られた。本活動の意義の1つである「共に出会い、活動することを通して、同じようなことに悩んでいる人があるのだということを知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ることが出来ること」の達成が出来たと思える1年であった。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. まとめと反省

概して新型コロナウイルスの影響により思うよう

に活動をする事が出来なかった1年であった。今回の活動には普段から参加してくれていた中国ルーツの子ども達が多数不参加となった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中国ルーツのみならず、外国にルーツを持つ者に対して差別的な扱いが見られている。SNSでは「外国人が感染を拡大させている」といった根も葉もない噂が広がり、「外国人を全員日本から追い出せ」という過激な思想を持つ者も見られる。そのような中で外国にルーツを持つ者たちは更なる生き辛さを抱え過ごしている。従って、活動に参加し万が一感染したらという不安が保護者の中にあり、子ども達が参加したくてもできなかったケースがみられた。この活動に居場所を見出している子ども達が参加できなかったことはとても心が痛むことであり、子ども達が安心して参加する事が出来る体制づくりを進めていく必要がある。また、今回は新型コロナウイルスの影響により新入生の勧誘活動が思うようにできなかった。その為本活動に新入した者は本年度0人であり、4回生の卒業に伴い深刻な人手不足に陥っている。

2. 今後の展望

子ども達がより安心して活動に参加できる体制づくりをしていく。検温の際にかなりの時間を費やしてしまったため、非接触型体温計の導入等をして速やかに検温が出来る体制を整える。長期休暇中の活動も場合によってはたけのこ会のようにオンラインで対応する事を求められるようになるかもしれないが、長期休暇中の活動は特に「活動中に他の児童生徒に会える事」「体を動かす事」「普段できない活動をする事」に魅力を感じて参加してくれている児童生徒が多い為、考慮の余地がある。また、今回は人手不足が深刻であった。その為、来年度新入生の勧誘に力を入れていく。具体的には講義でのチラシ配布や、学生会館前でのチラシ配布活動、SNSでの広報を積極的に行っていく。